

地域の子は地域みんなで守り育てよう

安来市立島田交流センター

1. 島田交流センターの概要

当交流センターの地区は、安来市街と米子市街に挟まれた農村地帯です。工業化も進み、地区内にある「安来鉄鋼団地」、住宅の団地造成もでき、年々世帯数が増加し、子供の人数も増えてきました。

急激な社会情勢の変化は、当地区でも生活の多様化と共に、住民の連帯意識の欠如を生みがちです。地域の諸団体の代表者で構成された「交流センター運営協議会」では、地域の現状に対応して、従来から伝承してきた特色ある地域文化を大切に、地域の将来を見通した活力ある活動を模索してきました。

そこで、「交流センター」を地域交流の拠点として位置付け、先ず、地域が一体となって「地域の青少年」を取り囲んだ「人づくり」の活動することから始めました。これが地域活性化の原動力となり、地域文化活動に発展することを願っています。

2. 事業の概要

(1) はじめに

- ・実証事業名 「青少年の健全育成と地域とのふれあい活動」
- ・実証事業テーマ 「地域の人、自然、伝統、歴史、産業とのふれあいを通した青少年健全育成を地域みんなで取り組もう」
- ・ねらい

この事業を通して「地域の仲間づくりと思いやりのある人づくり」を推進したい。そして、地区住民の総意を結集した青少年健全育成活動を実践する。

- ①「地域の子は地域みんなで守り育てる」…異年齢集団との交流活動を通して、青少年の健全育成をめざし、地域あげて取り組む。また、幼稚園、小学校との連携を密にして、「学習支援活動」を通して交流を図る。
- ②生涯学習の観点に立ち、地域住民の連携を深め、地域に立脚した学習の場を設定し、地域教育力として発揮できる一員としての自覚と「生き甲斐」を感得できる事業を推進する。

(2) 具体的な取り組み

年度初めから、1年間を通して活動してきましたが、ここでは、当事業として取り組みました10月以降の活動について紹介します。

この活動を次の5つの部門に分けて推進してきました

ア、青少年の健全育成活動および健全な生活を守る活動

イ、幼稚園、小学校への学習支援活動

エ、通学合宿

ウ、わんぱくクラブ活動

オ、その他の青少年健全育成活動

ア、青少年の健全育成活動および健全な生活を守る活動

P T A、自治会長会、民生委員、地域安全推進委員、さわやかネット（子どもの健全な生活を守る会）等の地域住民を中心に、青少年の健全育成、補導、安全確保等の活動をしました。

ふるさと探検 地区内の巡り、歴史文化を学ぶ活動です。細井町内の旧家に残る古文書や武具、花嫁衣装などの見学や世界の最先端技術を誇る「守屋刃物」の工場を見学しました。

3世代交流大会 「世代交流グランドゴルフ大会」をしました。その後、300人分の大鍋で作った「芋鍋料理」を囲み、交流を深めました。

安全見守り活動 毎学期当初の1ヶ月間毎朝、学校前で「挨拶運動」をしました。また、反射材による「交通安全教室」を開催しました。

有害図書の回収 手作りの黄色い回収ボックスをコンビニ店前に設置し、毎月、有害図書の回収に努め、処理してきました。



「ふるさと探検」

イ、幼稚園・小学校への学習支援

幼稚園・小学校と緊密な連携をとって、年間計画に基づいて、地域から講師（支援者）を送り、学習の支援をしました。

幼稚園への支援 年間を通してさつまいもの栽培の支援をし、芋掘り交流会や焼き芋交流会をして、ふれあいを深めました。



「幼稚園、芋掘り交流会」

小学校の生活科・総合学習への学習支援

- 1年 「昔の遊び」 2月
- 2年 「凧づくり」 11月
- 3年 「梨の学習」 10月
- 4年 「竹の学習」 10月
- 5年 「中海の環境学習」 10月
- 6年 「伝統芸能・安来節踊りと銭太鼓」
- 6年 「支援者への感謝の会」

小学校公開日への支援

地域に学校を開放し紹介する行事に参加と協力をしました。

大山スキー教室への支援

地域のスキー愛好家に協力を呼びかけ、4年以上の全児童のスキー指導に参加、協力しました。

ウ. わんぱくクラブの活動

年度当初、会員を募り、通年の活動として毎月1回実施しました。主として郷土の自然と地域の人とのふれあい活動を実施しました。

「芋掘りと秋野菜の種まき」・「道後山ハイキング」「クリスマスケーキ作り」を体験させました。



「道後山ハイキング」



通学合宿「夕食づくり」

エ. 通学合宿の活動

- ・ 小学校5年生22名を対象に交流センターで4泊5日の合宿をし、通学をさせました。「自分で考え、判断し、行動する力」を養うことを目的にして生活させました。
- ・ 地域の諸団体から30名の支援を頂き、安全管理と生活指導に努めました。
- ・ 親元から離れ、テレビやゲームのない生活の中で、食事作り・掃除・洗濯・自習などの自主体験をさせました。
- ・ 近隣の10戸の家庭にお願いして「もらい風呂」を体験させましたが、よその家族とのふれあいもでき、よい体験学習になりました。

オ. その他の青少年健全育成活動

親子ふれあい健康ウォーキング 親子会、児童クラブ、スポーツ少年団などに呼びかけ、80名の参加を得ることができました。参加者受付、体力測定など運営の中に児童も加わって手伝いました。

すこやか教室

- ・ 幼児を持つお母さんと幼児、20名の参加で、毎週1回、定期的で開催しています。
- 年間計画の中に、幼児保育・幼児食調理・幼児の健康についての内容を取り入れ、講師を招いて学習を深めました。



「すこやか教室」

3. 事業の成果

- (1) 地域の方々の理解と協力で、多岐にわたる諸活動が子どもの笑顔と大人の笑顔の中で実現できました。数年に亘る伝統的な活動として定着してきました。
- (2) 広範囲から支援者の参加と理解を得るため組織づくりに工夫をしました。特に各団体から担当者を選出して、学習支援者代表者を組織して具体的な内容の検討と諸活動への支援者確保を分担しながら運営しました。継続事業として育てるため、動ける組織作りをすることができました。
- (3) 幼稚園・小学校の考え方に沿って、交流センターが加わり年間計画を組み立て、さらに学習支援代表者会に図り、支援者は事前に学校に出向き、担当教員や児童と打ち合わせをしておくという、実践までの運営の手順を確立しました。
- (4) 幼稚園・小学校の学習支援内容は地域の伝統や特色に沿った内容であり、児童も大人も共に郷土を見直すよい機会でした。
- (5) 関係諸団体は青少年健全育成をふまえ、青少年の参加を念頭に置いた事業の運営がなされるようになりました。
- (6) 1ヶ月ぐらい前から活動内容の計画を事前に情報を提供しましたところ、「大山スキー教室」のように多数の若者の支援者を確保することができました。
- (7) 各々の活動後は交流センターに集まって頂き、感想を交えた短時間の反省会を開いていますが、楽しい情報交換が次の活動につながっています。
- (8) 「地域の子どもが活動する場」に大人が支援者として参加することによって「地域の大人も楽しんで活動する」という状況を生み出すことができました。

4. 課題と今後の取り組み

- (1) 幼稚園・小学校の学習支援は、担当教員の考えを尊重した姿で進めなければ成立しません。そのため、担当教員の考えをよく理解した上での学習支援をするため、今後も綿密な事前打ち合わせ等の工夫が必要です。
- (2) 活動内容は青少年自身の「やりたいこと」や考えを、受け止めながら計画できるように、さらに工夫する必要があります。
- (3) 地域が一丸となってこの活動に取り組むために、今後も、毎月の「交流センターだより」によって、実践の報告と毎月の活動案内を乗せて協力を呼びかけたいと思います。
- (4) 青少年健全育成事業をこのように地域全体で取り組み始めて7年目になりますが毎年の積み上げは伝統となり、スケジュールいっぱいの活動も容易に運営できるようになりましたが、マンネリ化しないような配慮が必要です。
- (5) 地区外に出かける活動の際、経費の都合で、自家用車で分乗して出かけることがあるが、児童の安全な輸送については一考を要する面があります。
- (6) 地域の純粋な子ども達の活動の姿が、大人達の連帯感や温かな心情を呼び起こし、さらには支援者として事前学習を重ねたり、これからの地域のあり方を模索したり、いろいろな意識の掘り起こしの起爆剤になってほしいと願っています。